

関係各位

兵庫県病害虫防除所長

令和 7 年度病害虫発生予察防除情報 第 10 号を発表します。

極早生・早生たまねぎを中心にネギアザミウマの多発生が確認されています。今後、野菜類、花き類で被害が多くなる恐れがあるので、圃場における発生状況に注意して適切な防除指導をお願いします。

令和 7 年度病害虫発生予察防除情報 第 10 号

ネギアザミウマの発生状況と防除対策について

- | | |
|--------|--------------------------------|
| 1 対象作物 | 野菜類（たまねぎ、ねぎ等）、花き類（ゆり、トルコギキョウ等） |
| 2 病害虫名 | ネギアザミウマ |
| 3 発生地域 | 県内全域 |
| 4 発生状況 | |

- (1) 加西市のたまねぎ予察圃場（早生品種）で、2月中旬に実施した調査では、ネギアザミウマ（写真1）の寄生株率は100%（過去平均値51.2%）、1株あたりの虫数は8.9頭（平年値0.8頭）と、平年より多い。
- (2) 南あわじ市のたまねぎ予察圃場（早生品種）で、2月下旬に実施した調査では、ネギアザミウマの寄生株率は8.0%（過去平均値0%）、1株あたりの虫数は0.04頭（同0頭）と、発生が多い。
- (3) 淡路地域で2月下旬に実施したたまねぎの現地調査（極早生・早生品種、18圃場）では、ネギアザミウマの発生圃場率は94.4%（過去平均値94.9%）、1株あたりの虫数は4.5頭（同2.2頭）と、発生がやや多い。一部の圃場では幼虫が発生し、増殖も確認されている。

5 今後の予想

今後、気温の上昇により本種の増殖に好適な条件となる。大阪管区気象台の近畿地方の1カ月予報（2月26日発表）によると、気温は平年よりも高く推移すると予想されており、今後、野菜類や花き類を中心に、本種の多発や、被害の拡大が予想される。

6 防除上の留意点

- (1) 本種は多発すると密度抑制が困難であることから、圃場内での発生状況をよく把握し、多発前の初期防除を徹底する。たまねぎやねぎでは、主に新葉が重なっている部分に生息しているため、重点的に観察する（写真2）。収穫後は、周辺圃場への本種の分散を防ぐた

め、できるだけ速やかに残渣を処分する。

- (2) 本種は広範な植物に寄生するため、圃場周辺の雑草でも発生する。雑草管理を行い、本虫の圃場への侵入を防ぐ。
- (3) たまねぎやねぎ、ゆり、トルコギキョウでは、本種が媒介するアイリス黄斑ウイルス (IYSV) による病害を生じる恐れがある (写真3~6) ため、注意が必要である。
詳細は、農作物病害虫・雑草防除指導指針の参考資料 3-4「ネギアザミウマの生態と防除」を参照する (<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/haishinfile/list/hyogo>)。
- (4) 本種は、各系統の殺虫剤に対する抵抗性の発達が懸念されており、本県においても一部の系統の薬剤において、殺虫効果が低い事例を認めている。抵抗性獲得を避けるため、同一系統薬剤を連用せず、系統の異なる薬剤をローテーションして使用する。

*この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載しています。

<https://bo.jo.hyogo-nourinsuisangc.jp>

*農作物病害虫・雑草防除指導指針は以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

*兵庫県総合防除計画は以下のURLに掲載

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222

「兵庫県病害虫防除所」X (旧Twitter)にて情報発信中。
フォローをお願いします。
Xアカウント (https://x.com/hyogo_boujoshou)





写真1 ネギアザミウマの成虫 (左) と幼虫 (右)



写真2 たまねぎ新葉の隙間に生息する成虫 (左) と幼虫 (右)



写真3 たまねぎにおける IYSV の病徴 (矢印) と拡大した病徴 (右上)



写真4 根深ねぎにおける IYSV の病徴 (左: 初期症状、右: 後期症状)



写真5 ゆりにおける IYSV の病徴 (左: 初期症状、右: 後期症状)



写真6 トルコギキョウにおける IYSV の病徴 (左: 初期症状、右: 後期症状)